

「聖霊によって主を知る」

(ルカによる福音書 1:39-45)

いよいよ降臨節最後の主日です。今日のキーワードは聖霊です。聖霊によって子を宿したマリアは、いとこのエリサベトも懐妊したことを知って彼女に挨拶するために急いで出かけました。マリアの挨拶を聞いたとき、エリサベトのお腹の子がおどりました。そしてエリサベトは聖霊に満たされ、マリアとその胎内の子は祝福されている、と声高らかに言いました。「わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょうか。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」マリアが説明したわけでもないのに、エリサベトはマリアの胎内の子が「主」であることを知りました。これはエリサベトを満たした聖霊によるものでした。エリサベトがはっきりと「これは聖霊の働きだ」分かったわけではありません。エリサベトは「胎内の子どもがおどる」という聖霊の働きかけを受けることで、「主」であることを悟ったのです。聖霊はときにわたしたちの気が付かないような仕方で働きます。しかし、人が喜びに満たされる時、そこには聖霊が働いています。聖霊によって結ばれたマリアとエリサベトに主にある喜びが溢れました。マリアがなぜ急いでエリサベトのところに行ったのかというと、この祝福を、喜びを分かち合いたかったからです。聖霊の働きによって、主イエスの誕生の喜びは伝えられるのです。

主イエスが遣わされたことによってもたらされた救いは、聖霊降臨によって完成します。聖霊が降った弟子たちによって教会が誕生し、そこに集められた人々は聖霊によって神の家族とされます。他ならないわたしたちもその家族の一員です。わたしたちもエリサベトとマリアと同じ、聖霊によって結ばれ、喜びを分かち合うために教会に集められているのです。この聖霊によって、私たちは、主イエスを知ることができます。その霊が働いてくださるからこそ、来るべき日をマリアとエリサベトと同じように喜びをもって迎えることができます。降臨節最後の主日にあつて、エリサベトの胎内で子がおどったことで表されたように、わたしたちにも日々表されている聖霊の働きを感じましょう。その聖霊の働きをあらためて信じましょう。そして喜びに満たされて、来るべき日を迎えましょう。